特集 真空管アンプで聴くハイレゾ音源

ハイレゾ音源を聴いてみよう

本誌５月号付録「MJオーディオテクニカルディスクvol.7」は，CD音源に加え，96kHz/24bitのハイレゾ音源データを１枚のディスクに記録したCDエクストラになっている．通常のCDとして８曲が再生されるが，パソコンのディスクドライブに挿入すると，wav型式のデータファイルを取り出すことができるものだ．ハイレゾ音源の再生には，右ページのイラストのようなシステムが必要となるが，MJオーディオテクニカルディスクvol.7に収録している96kHz/24bitのWAVデータでも，CDに比べて理論上256倍の階調を持つ．本特集では５月号付録CDを，真空管アンプを使って試聴し，その特徴を探ってみたい．

5月号付録「MJオーディオテクニカルディスク Vol.7」を聴いて

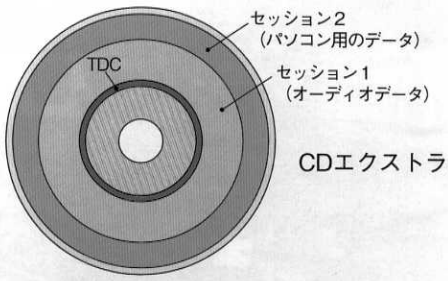
柴崎　功

ハイレゾ音源とCD音源の違い

5月号の付録CDはCDエクストラと呼ばれる音楽CDとCD-ROMのマルチセッションディスクで，内側のセッション１にCDと同じ仕様の音楽データ，外側のセッション２にはPC（パソコン）用の96kHz/24ビットハイレゾ音源データが記録されている．このディスクは高音質素材と高度な製盤技術を用い，ドイツで製造した高音質盤なので，一般の市販CDより音が良い．このためCD再生時は「CDでも十分な高音質だ」と感じたが，同じ曲のハイレゾデータを聴いた途端にこの印象は吹き飛んだ．ハイレゾ音源は高域だけでなく低域の分解能も改善され，ノイズフロアが下がり，ピークの山が高くなってDレンジが上下に拡張される．このためCDでは見えなかった世界が現れ，階調が増えるので抑揚表現力や躍動感が増し，キメの細かい艶やかな音になる．音場は奥行きが深くなって楽器の前後関係が明確になり，スピーカーの外側にも音場が広がってスケールが大きくなり，臨場感が向上する．

今後のハイレゾ分野への期待

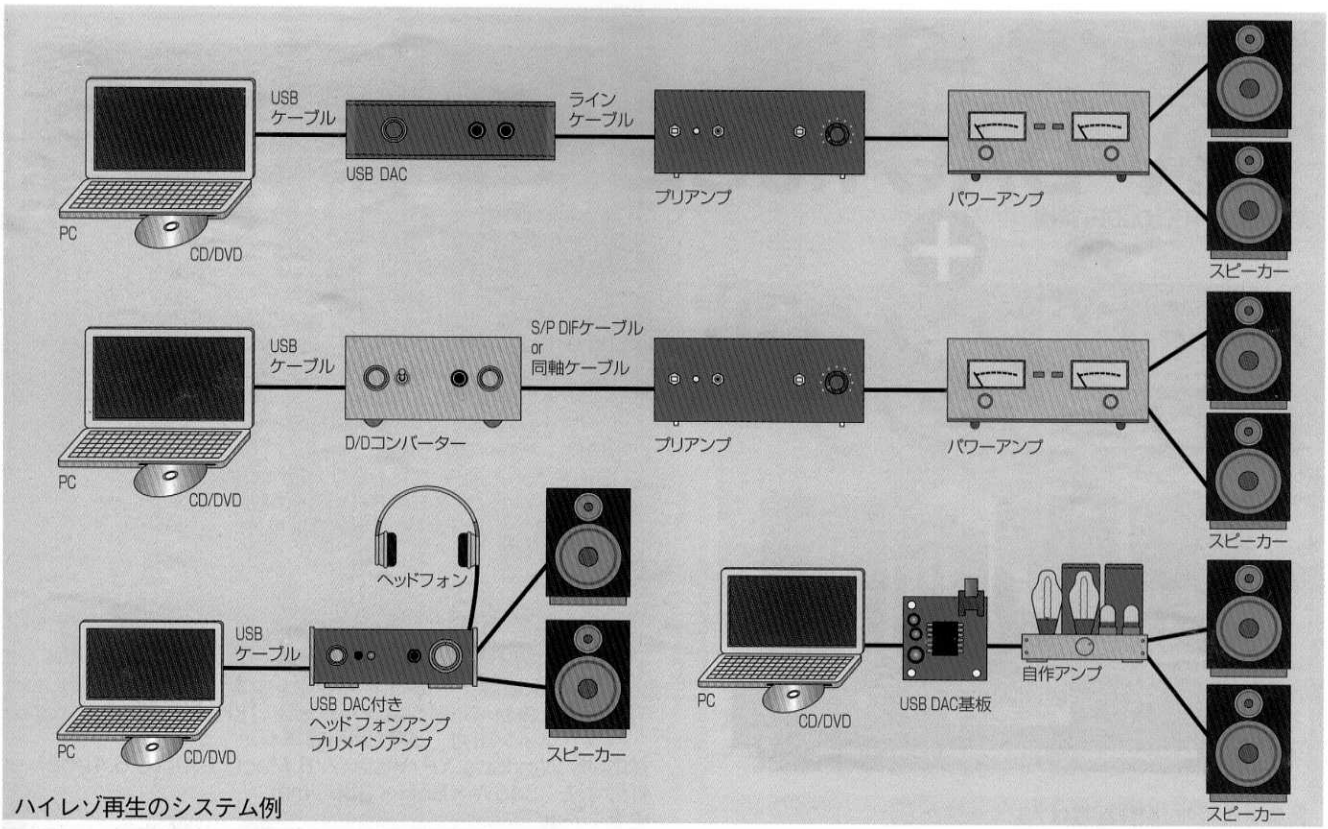
96kHz/24ビットのデータまでは，PCのOS内に標準ドライバーが組み込まれているので，新たにドライバーをインストールしなくても通常はPCにUSB DACなどを接続すれば，自動認識してデータが転送できる．しかし176.4kHz以上のデータの場合，Mac系PCはOS内に標準ドライバーが組み込まれているので問題ないが，Windows系PCはOSが対応してないので，専用ドライバーをインストールしないと使えない．しかもこのドライバーは接続するUSB機器ごとに違うので，それぞれの機器に対応したドライバーをインストールする必要があって面倒だ．しかもUSBケーブルを抜き差しするたびに相互認証が必要だったり，再生ソフトの設定が面倒だったり，ソフトが突如異常動作を起こすこともあり，音は良いが精神的に疲れやすい．心中のストレスを解消するために音楽を聴きたいのに，現在のPCオーディオシステムはかえってストレスを増大させるケースが少なくないのだ．ハイレゾ音源の世界は素晴らしいので，機器間をケーブルで接続したら総て自動的に設定され，選曲操作をすればすぐにハイレゾ音源が再生できるという「誰でも使えるハイレゾ再生システム」の出現を私は期待する．



CDエクストラの構造

WAV フォーマット
・So What（マイルス・デイビス）
・春の声（作曲：ヨハン・シュトラウスⅡ）
・Cry me a river（エラ・フィッツジェラルド）
通常 CD
・So What（マイルス・デイビス）
・春の声（作曲：ヨハン・シュトラウスⅡ）
・Misty（ピアノ：Simon Mulligan）
・ゴッドファーザー 愛のテーマ（作曲：ニーノ・ロータ）
・夜來香（中国楽器（古箏，琵琶，二胡，揚琴）：Numerous artists
・Goodbye（キャノンボール・アダレイ）
・Cry me a river（エラ・フィッツジェラルド）
・ラ・カンパネラ（ピアノ：Adrien George）

※お詫び
「MJオーディオテクニカルディスクvol.7」におきまして，通常のCDプレーヤーに入れれば，CDは正常に全曲再生しますが，ハイレゾデータのトラック２「春の声」のみ収録時間５分27秒のところ4分程度で終了してしまいます．また，CDからハードディスク等の他メディアにコピーができません．
完全なデータにつきましてはこちらからダウンロードしてください．
http://www.seibundo-shinkosha.net/mj/
読者の皆様にご不便をお掛け致しましたことを，お詫び申し上げます．



ハイレゾ再生のシステム例

ハイレゾで広がる音楽表現

小澤隆久

ハイレゾ音源とCD音源の特徴

ハイレゾ音源とCD音源は，それらのマスタリングを変えていない限り，スピーカーやカートリッジの機種を変更したときのように劇的に変わるようなものではありません．今回付録の３曲も，それぞれでニュアンスが違うことはすぐにわかるものの，どこがどう違うかを聴き分けるのには真剣に何回も聴き比べなければなりませんでした．それくらい，よくできたCD音源は音楽鑑賞に必要なスペックを充分に持っていると思います．その上で，CD音源に対してハイレゾ音源が優位に感じた点を以下にまとめてみます．

マイルスの「So What」では，冒頭のドラムロールの１打１打の音質の違いが鮮明になり，この部分だけで音楽に引き込まれていきます．また，サックスは楽器が鳴っているというよりも，空間を響かせているというように聴こえました．「春の声」では，はじめの弦楽合奏の音色が全然違います．弦の音から硬質感がとれてのびやかに美しく響きます．ソプラノも細かい音程の動きがよくわかり，声が音符の上を自由に転がって行くようです．エラの「Cry Me a River」では，冒頭のギターが沈み込むように深く響き，エラのヴォカリーゼは霧の中から浮かび上がるように切なく感じられました．

今後のハイレゾ分野への期待

記録できる情報量が多いことは，より高音質な再生につながることは間違いのないことだと思います．今回の聴き比べでも，CD音源で充分だと思っていたものがハイレゾ音源ではより緻密で自然な音を聴くことができました．録音されたときの空気感やライブ感までも再現できるハイレゾ音源には大いに期待が持てます．これからハイスペックで録音される音源だけでなく，過去の名盤をもっと高音質で聴くことができるかと思うとワクワクします．

そして，この素晴らしい器を活かすためにも，ソフト製作の面では決して妥協をしないものを作り上げて欲しいと思います．携帯型プレーヤーとヘッドフォンで楽しめることも重要だと思いますが，本格的なオーディオ装置で真価を発揮するような音源が多数発売されることを望みます．私たちもオーディオシステムをブラッシュアップして，良い音源を聴き分けられる環境を整備しましょう．